

付録 特定共済損害評価基準モデル園地設定事業

第1 半相殺特定危険方式及び樹園地特定危険方式の特定共済損害評価基準モデル園地における特定共済調整果指数及び特定共済被害果指数の設定

半相殺特定危険方式及び樹園地特定危険方式の損害評価の方法は、共済事故の発生の都度（摘果終了時前にあつてはすべての災害の発生の都度）損害評価を行うこととしており、また着果している果実の損害評価は収穫期に行うこととしている。このため、共済事故発生時に着果している調整果実及び被害果実について共済事故発生時から次の共済事故発生時まで、または共済事故発生時から収穫期までの間において落下または滅失するものが生じるが、これらのものについては、樹園地ごとに現地評価を行わないこととされている。したがって、これらの果実が共済事故発生後から収穫期までの間において、いかなる状態で落下または滅失したかをモデル園地において次の方法により調査して、特定共済調整果指数及び特定共済被害果指数を設定し、この指数に基づいて収穫期に行つた樹園地ごとの現地調査結果に基づく着果調整果数及び着果被害果数を修正するものとする。

1 調査方法

(1) モデル園地の設定

モデル園地の設定は共済事故の発生の都度、現地評価を行つた被害樹園地の中から被害程度中庸な樹園地を2樹園地設定する。

また、共済事故が重複した地域が生じたときは、共済事故が重複した地域についても同様に2樹園地を設定する。

(2) 調査対象

(1) のモデル園地内の共済事故により生じた着果調整果実及び着果被害果実を対象とする。

(3) 調査標本果実の識別

(1) により設定したモデル園地ごとに着果調整果実100果及び着果被害果実100果を選定して、それぞれごとに識別票を付ける。なお、調査標本果実の選定に当たっては被害甚の樹体または被害軽の樹体に偏りを生じないように選定する。

(4) 調査標本果実の落果数調査

(3) により識別した調査標本果実について、収穫期にそれぞれごとに着果している果実数の調査を行う。なお、必要に応じ当該果実の落果状況等を適宜見回り調査する。

(5) モデル園地ごとの特定共済調整果指数及び特定共済被害果指数の算定

(4) の調査結果により連合会は、(1) により設定したモデル園地ごとに特定共済調整果指数及び特定共済被害果指数を次により算定する。

$$\text{モデル園地ごとの特定共済調整果指数} = \left(\frac{\text{調査標本の調整果実数の合計}}{\text{収穫期における調査標本の調整果実の着果数合計}} \right) - 1$$

$$\text{モデル園地ごとの特定共済被害果指数} = \left(\frac{\text{調査標本の被害果実数の合計}}{\text{収穫期における調査標本の被害果実の着果数合計}} \right) - 1$$

この場合の指数は、小数点以下第4位を四捨五入して小数点以下第3位まで求める。

〔計算例〕

			着果調整果	着果被害果
収穫期における調査	②	9月15日	168 果	130 果
暴風雨によるモデル園地設定	①	8月7日	200 果	200 果

$$\text{モデル園地ごとの特定共済調整果指数} = \left(\frac{\text{調査標本の調整果実の数200果}}{\text{調査標本の調整果実の着果数168果}} \right) - 1 = 1.190 - 1 = 0.190$$

$$\text{モデル園地ごとの特定共済被害果指数} = \left(\frac{\text{調査標本の被害果実の数200果}}{\text{調査標本の被害果実の着果数130果}} \right) - 1 = 1.538 - 1 = 0.538$$

2 特定共済調整果指数及び特定共済被害果指数の適用

1の(5)で算定された特定共済調整果指数及び特定共済被害果指数は、モデル園地設定に係る地域ごとに適用することとするが指数の近似している地域にあつては、次の方法により特定共済調整果指数及び特定共済被害果指数を求めこれを適用して差し支えない。

$$\text{指数の近似している地域に適用する特定共済調整果指数} = \left(\frac{\text{調査標本の調整果実数の合計}}{\text{収穫期における調査標本の調整果実の着果数合計}} \right) - 1$$

$$\text{指数の近似している地域に適用する特定共済被害果指数} = \left(\frac{\text{調査標本の被害果実数の合計}}{\text{収穫期における調査標本の被害果実の着果数合計}} \right) - 1$$

第2 半相殺特定危険方式及び樹園地特定危険方式の特定共済損害評価基準モデル園地における減収歩合の算定

半相殺特定危険方式及び樹園地特定危険方式の損害評価は、「減収推定尺度」が定められている収穫共済の共済目的の種類の場合にあつては、第2章第3節第2の1により算出した損害歩合を別表7の「減収推定尺度」に適用して、災害の種類別に減収歩合を見積もるものとし、その他の場合にあつては「特定共済損害評価基準モデル園地設定事業」によりモデル園地を設定し、当該モデル園地において当該災害に係る減収歩合を算定することとしているが、当該モデル園地における減収歩合の算定は、次により行うものとする。

1 調査方法

(1) モデル園地の設定

① モデル園地は、災害の発生の都度、原則として現地評価を行つた樹園地の中から設定するものとし、その設定に当たつては、現地評価を行つた樹園地について被害状況、災害の種類、地域条件、品種、熟期等（以下「被害状況等」という。）に応じて階層区分を行い、当該階層区分ごとに被害程度の中庸な樹園地を1樹園地設定する。また、樹園地の数は、被害状況等に応じて必要があると認められる場合は増加すること。

② モデル園地の設定において、組合等の区域内における第2回目の災害の発生地域と組合等の区域内における第1回目の災害の発生地域のうち災害が重複している地域がある場合は、当該災害の重複する地域については改めてモデル園地を設定するものとする。

ただし、災害が重複する地域内に第1回目の災害が発生した時に設定したモデル園地がある場合であつて、当該モデル園地の被害の状況等が当該災害の重複する地域の被害状況等からみて、ほぼ中庸と認められる場合は、第1回目の災害に係るモデル園地を第2回目の災害に係るモデル園地としても差し支えない。

③ 組合等の区域内における第3回目以降のモデル園地の設定は、②の方法に準じて設定するものとする。

(2) 現地調査

① 調査標本及び調査部位の選定

(1)により設定したモデル園地ごとに被害の状態の中庸な樹体（区画）を5本（区画）を標準として抽出し、当該調査標本について亜主枝、次亜主枝等を単位とした被害の状態が中庸な部位を抽出する。

なお、被害状況等により標本樹の数を増加すること。

② 損傷歩合の調査

災害の発生の都度、①の調査標本ごとに、第2章第3節第2の1の方法に準じて損傷歩合の調査を行うものとする。

③ 平年着果数確保状況の調査

落花し、結実した時に平年着果数（その年の気象の推移、被害の発生状況等を平年並みとみなしたその年に予想される着果数をいう。以下同じ。）が確保されるかどうかモデル園地ごとに損傷果（そう）数及び健全果（そう）数を調査する。

2 減収歩合の算定

（1）1の（2）の調査結果に基づき、次式によりモデル園地ごとの減収歩合を算定する。

なお、減収歩合がマイナスとなる場合は、当該モデル園地の減収歩合は0とする。

$$\text{減収歩合} = 1 - \left[\frac{\text{健全果（そう）数結実割合}}{\text{平年着果数確保果（そう）数結実割合}} \right] \times 100$$

平年着果数確保果（そう）数結実割合は、平年的な収穫量が確保されるのに必要な果（そう）数の結実割合をいい、試験研究機関、地方農政局統計部等その他関係機関の指導を受けるものとする。

$$\text{健全果（そう）数結実割合} = \left[1 - \frac{\text{標本樹平均損傷果（そう）数}}{\text{標本樹平均総果（そう）数}} \right] \times 100$$

（2）（1）により算定したモデル園地ごとの減収歩合から、次により災害の種類別の減収歩合を算定する。

①
$$\frac{\text{モデル園地の災害の 当該モデル園地}}{\text{種類別の減収歩合}} = \frac{\text{の総減収歩合}}{\text{の総減収歩合}} \times \text{当該モデル園地の災害の種類別の減収歩合配分率}$$

②
$$\frac{\text{当該モデル園地の災害の}}{\text{種類別の減収歩合配分率}} = \frac{\text{当該モデル園地の各回ごとの実損傷歩合}}{\text{当該モデル園地の各回ごとの実損傷歩合の合計}} \times 100$$

なお、当該モデル園地の各回ごとの実損傷歩合の算定は、次により行う。

第1回災害に係る実損傷歩合 = 第1回災害に係る損傷歩合

第2回災害に係る実損傷歩合 = (100 - 第1回災害に係る実損傷歩合) × 第2回災害に係る損傷歩合

第n回災害に係る実損傷歩合 = (100 - 第1回災害に係る実損傷歩合 - 第2回災害に係る実損傷歩合 - 第n-1回災害に係る実損傷歩合) × 第n回災害に係る損傷歩合

付表 1

半相殺減収総合方式及び樹園地特定危険方式の損害割合別の共済金支払割合

損害割合	共済金 支払割合	損害割合	共済金 支払割合	損害割合	共済金 支払割合	損害割合	共済金 支払割合	損害割合	共済金 支払割合
30	0	44	20	58	40	72	60	86	80
30を超え 30.4まで	0.4	45	21	59	41	73	61	87	81
31	1	46	23	60	43	74	63	88	83
32	3	47	24	61	44	75	64	89	84
33	4	48	26	62	46	76	66	90	86
34	6	49	27	63	47	77	67	91	87
35	7	50	29	64	49	78	69	92	89
36	9	51	30	65	50	79	70	93	90
37	10	52	31	66	51	80	71	94	91
38	11	53	33	67	53	81	73	95	93
39	13	54	34	68	54	82	74	96	94
40	14	55	36	69	56	83	76	97	96
41	16	56	37	70	57	84	77	98	97
42	17	57	39	71	59	85	79	99	99
43	19							100	100

付表 2

半相殺特定危険方式及び全相殺方式の損害割合別の共済金支払割合

損害割合	共済金 支払割合	損害割合	共済金 支払割合	損害割合	共済金 支払割合	損害割合	共済金 支払割合	損害割合	共済金 支払割合
20	0	36	20	52	40	68	60	84	80
20を超え 20.4まで	0.3	37	21	53	41	69	61	85	81
21	1	38	23	54	43	70	63	86	83
22	3	39	24	55	44	71	64	87	84
23	4	40	25	56	45	72	65	88	85
24	5	41	26	57	46	73	66	89	86
25	6	42	28	58	48	74	68	90	88
26	8	43	29	59	49	75	69	91	89
27	9	44	30	60	50	76	70	92	90
28	10	45	31	61	51	77	71	93	91
29	11	46	33	62	53	78	73	94	93
30	13	47	34	63	54	79	74	95	94
31	14	48	35	64	55	80	75	96	95
32	15	49	36	65	56	81	76	97	96
33	16	50	38	66	58	82	78	98	98
34	18	51	39	67	59	83	79	99	99
35	19							100	100

付表 3

樹園地減収総合方式の損害割合別の共済金支払割合

損害割合	共済金 支払割合	損害割合	共済金 支払割合	損害割合	共済金 支払割合	損害割合	共済金 支払割合	損害割合	共済金 支払割合
40	0	52	20	64	40	76	60	88	80
40を超え 40.4まで	0.4	53	22	65	42	77	62	89	82
41	2	54	23	66	43	78	63	90	83
42	3	55	25	67	45	79	65	91	85
43	5	56	27	68	47	80	67	92	87
44	7	57	28	69	48	81	68	93	88
45	8	58	30	70	50	82	70	94	90
46	10	59	32	71	52	83	72	95	92
47	12	60	33	72	53	84	73	96	93
48	13	61	35	73	55	85	75	97	95
49	15	62	37	74	57	86	77	98	97
50	17	63	38	75	58	87	78	99	98
51	18							100	100

付表 4

園地面積別棚区画数早見表

棚区画の 大きさ 園地面積	m m 1.8×1.8 (1間)	m m 2.0×2.0	m m 2.1×2.1 (7尺)	m m 2.25×2.25 (7.5尺)	m m 2.4×2.4 (8尺)	m m 2.7×2.7 (9尺)	m m 3.0×3.0 (10尺)
0.5 a	15	13	11	10	9	7	6
1.0	31	25	23	20	17	14	11
1.5	46	38	34	30	26	21	17
2.0	62	50	45	40	35	27	22
2.5	77	63	57	49	43	34	28
3.0	93	75	68	59	52	41	33
3.5	108	88	79	69	61	48	39
4.0	123	100	91	79	70	55	44
4.5	139	113	102	89	78	62	50
5.0	154	125	113	99	87	69	56
5.5	170	138	125	109	95	75	61
6.0	185	150	136	119	104	82	66
6.5	201	163	147	128	113	89	72
7.0	216	175	159	138	122	96	78
7.5	231	188	170	148	130	103	83
8.0	247	200	181	158	139	110	89
8.5	262	213	193	168	148	117	94
9.0	278	225	204	178	156	123	100
9.5	293	238	215	188	165	130	106
10.0	309	250	227	198	174	137	111
20.0	617	500	454	395	347	274	222
30.0	926	750	680	593	521	412	333

10 a 以上の場合の見方

(例) 園地面積12 a の場合の棚区画 (2.0m×2.0m) 数は、250 (10 a 当たり) +50 (2 a 当たり) =300 (区画)

付表 5

樹間距離による10a 当たり植栽本数早見表

		樹 間 距 離 (m)																											
		9.9	9.6	9.3	9.0	8.7	8.4	8.1	7.8	7.5	7.2	6.9	6.6	6.3	6.0	5.7	5.4	5.1	4.8	4.5	4.2	3.9	3.6	3.3	3.0	2.7	2.4	2.1	1.8
樹 間 距	1.8	56	58	60	62	64	66	69	71	74	77	81	84	88	93	97	103	109	116	123	132	142	154	168	185	206	231	265	309
	2.1	48	50	51	53	55	57	59	61	63	66	69	72	76	79	83	88	93	99	106	113	122	132	144	159	176	198	227	
	2.4	42	43	45	46	48	50	51	53	56	58	60	63	66	69	73	77	82	87	93	99	107	116	126	139	154	174		
	2.7	37	39	40	41	43	44	46	47	49	51	54	56	59	62	65	69	73	77	82	88	95	103	112	124	137			
	3.0	34	35	36	37	38	40	41	43	44	46	48	51	53	56	58	62	65	70	74	79	86	93	101	111				
	3.3	31	32	34	34	35	36	37	39	40	42	44	46	48	50	53	56	59	63	67	72	78	84	92					
	3.6	28	29	30	31	32	33	34	36	37	39	40	42	44	46	49	51	54	58	62	66	71	77						
	3.9	26	27	28	29	29	31	32	33	34	36	37	39	41	43	45	48	50	53	57	61	66							
	4.2	24	25	26	27	27	28	29	31	32	33	35	36	38	40	42	44	47	50	53	57								
	4.5	22	23	24	25	26	26	27	28	30	31	32	34	35	37	39	41	44	46	49									
	4.8	21	22	22	23	24	25	26	27	28	29	30	32	33	35	37	39	41	43										
	離 (m)	5.1	20	20	21	22	23	23	24	25	26	27	28	30	31	33	34	36	38										
5.4		19	19	20	21	21	22	23	24	25	26	27	28	29	31	32	34												
5.7		18	18	19	20	20	21	22	22	23	24	25	27	28	29	31													
6.0		17	17	18	19	19	20	21	21	22	23	24	25	26	28														
6.3		16	17	17	18	18	19	20	20	21	22	23	24	25															
6.6		15	16	16	17	17	18	19	19	20	21	22	23																
6.9		15	15	16	16	17	17	18	19	19	20	21	表の見方 〔例〕 樹間距離 4.5m及び6.0mの場合 植栽本数 37本																
7.2		14	14	15	15	16	17	17	18	19	19																		
7.5		13	14	14	15	15	16	16	17	18																			
7.8		13	13	14	14	14	15	16	16																				
8.1		12	13	13	14	14	15	15																					
8.4		12	12	13	13	14	14							(参考) 果樹別10a 当たり植栽本数 (小林章著、果樹園芸ハンドブック)															
8.7	12	12	12	13	13																								
9.0	11	12	12	12																									
9.3	11	11	12																										
9.6	11	11																											
9.9	10							33	19	120	75	48	180	19	12	12	8	33	19	33	19								

書 類 様 式

書類様式目録

様式番号	書 類 名
例 収 第 1 号の 1	半相殺減収総合方式・樹園地減収総合方式 連合会抜取調査野帳（果実数調査・樹体別）
例 収 第 1 号の 2	半相殺減収総合方式・樹園地減収総合方式（ぶどう）連合会抜取調査野帳（果実数調査・区画別）
例 収 第 1 号の 3	半相殺減収総合方式・樹園地減収総合方式（なし）連合会抜取調査野帳（果実数調査・樹体 4 分の 1 別）
例 収 第 1 号の 4	半相殺減収総合方式・樹園地減収総合方式（くり）連合会抜取調査野帳（樹体別）
例 収 第 1 号の 5	半相殺減収総合方式・樹園地減収総合方式（キウイフルーツ）連合会抜取調査野帳（果実数調査・区画別）
例 収 第 2 号の 1	半相殺減収総合方式・樹園地減収総合方式 連合会抜取調査野帳（着果数調査・樹体別）
例 収 第 2 号の 2	半相殺減収総合方式・樹園地減収総合方式（ぶどう）連合会抜取調査野帳（着果数調査・区画別）
例 収 第 2 号の 3	半相殺減収総合方式・樹園地減収総合方式（なし）連合会抜取調査野帳（着果数調査・樹体 4 分の 1 別）
例 収 第 2 号の 4	半相殺減収総合方式・樹園地減収総合方式（キウイフルーツ）連合会抜取調査野帳（着果数調査・区画別）
例 収 第 3 号の 1	半相殺減収総合方式・樹園地減収総合方式 連合会抜取調査野帳取りまとめ表・報告書（その 1）
例 収 第 3 号の 2	半相殺減収総合方式・樹園地減収総合方式 連合会抜取調査野帳取りまとめ表・報告書（その 2）
例 収 第 4 号の 1	半相殺特定危険方式・樹園地特定危険方式 連合会抜取調査野帳（損傷歩合調査）
例 収 第 4 号の 2	半相殺特定危険方式・樹園地特定危険方式 連合会抜取調査野帳（落果数調査）
例 収 第 4 号の 3	半相殺特定危険方式・樹園地特定危険方式 連合会抜取調査野帳（着果数調査）
例 収 第 4 号の 4	半相殺特定危険方式・樹園地特定危険方式 連合会抜取調査野帳取りまとめ表
例 収 第 5 号の 1	半相殺特定危険方式・樹園地特定危険方式 連合会抜取調査野帳取りまとめ表・報告書（その 1）
例 収 第 5 号の 2	半相殺特定危険方式・樹園地特定危険方式 連合会抜取調査野帳取りまとめ表・報告書（その 2）
例 収 第 6 号の 1	全相殺方式・災害収入共済方式 連合会全相殺等樹園地抜取調査野帳
例 収 第 6 号の 2	全相殺方式・災害収入共済方式 連合会全相殺等樹園地抜取調査野帳取りまとめ表
例 収 第 7 号	半相殺減収総合方式・樹園地減収総合方式 基準収穫量設定指数適用状況調査野帳
例 収 第 8 号の 1	全相殺減収総合方式 連合会出荷数量抜取調査野帳
例 収 第 8 号の 2	全相殺品質方式 連合会出荷数量抜取調査野帳
例 収 第 8 号の 3	災害収入共済方式 連合会出荷数量抜取調査野帳
例 樹 第 1 号	樹体共済 連合会抜取調査野帳
例 樹 第 2 号	樹体共済 連合会抜取調査野帳取りまとめ表・報告書

(様式例第1号の1)

平成 年産 収穫共済 半相殺減収総合方式・樹園地減収総合方式(樹種名) 連合会抜取調査野帳(果実数調査・樹体別)

共済事故等による種別				方式										野帳枚数		枚のうち 枚																																															
評価		組合		階層		共済		組合員		現地調査	年 月 日	評価																																																			
区域名		等名		区分名		番号		等氏名		年月日⑦		者印																																																			
引 受 状 況				被 害 状 況							日数差 ①-⑦	植 栽 本 数	着 果 樹 体 数 ①	階層区分をした場合			現地調査の方式																																														
樹園	類	細	品	樹	引	引	災害	災 害	損害通知(定期報告)	組合等現地評価の結果				見 込	分 割	分割	A	B	C	検 見	実 測																																										
地の	区	区	種	齢	受	受	の	発 生	申 告	被害	収穫開始	収 量	減 収 量	事 由	kg	kg		本	本	本	本	本	本	調査	調査																																						
地名	分	分	分	分	面	本	種類	年月日	収 量	割 合	予 定	年月日④						本	本	本	本	本	本	調査	調査																																						
地番					積	数																																																									
	類	群		年	a	本		年月日	kg	%	年月日							日	本	本	本	本	本	調査	調査																																						
調査階層区分(A・B・Cの別)																																																															
階層区分別の調査標本数(n)																																																															
調 査 標 本 番 号																																																															
主枝別 の着果 枝(群) 数	第 1 主 枝						本(群)																																																								
	第 n 主 枝																																																														
	合 計 ②																																																														
主枝別 の調査 標 本 (着果 枝・着 等)の 果実数 及び調 整果実 数	第1主枝		果 実 数				粒																																																								
			うち調整果実数				粒																																																								
主枝別 の調査 標 本 (着果 枝・着 等)の 果実数 及び調 整果実 数	第n主枝		果 実 数																																																												
			うち調整果実数																																																												
	平 均		果 実 数 ③																																																												
			うち調整果実数④																																																												
主枝別 の調査 標 本 (着果 枝・着 等)の 果実数 及び調 整果実 数	調査標本 の果実数		果実数⑤=②×③																																																												
			うち調整果実数⑥=②×④																																																												
秤 量 調 査 の 場 合										尺 度 適 用 調 査 の 場 合																																																					
果 実 重 の 調 査			階層区分 をしない 場合		階層区分をした場合		標準果実番号										1		2		3		4		5		6		7		8		9		n		計		平 均		日数差		修正平																				
					A階層		B階層		C階層		横径		A		B		C		縦径		A		B		C		果実 重		A		B		C		g		g		g																								
	調査果実数⑦		粒																																																												
	総 重 量 ⑧		g																																																												
	平均果実重⑨= ⑧ ⑦		g																																																												
	日数差に応じた果実 重肥大推定指数 ⑩																																																														
修正平均果実重 ⑪=⑨×⑩		g																																																													
階層区分を しない場合										階層区分をした場合										階層区分を しない場合										階層区分をした場合										分割評価																							
A階層										B階層										C階層										A階層										B階層										C階層										分割減収量		分割事由	
実 測 調査の 調査標 本	果 実 数 ⑬		粒																																																												
	うち調整果実数 ⑭		粒																																																												
	果 実 数 ⑮																																																														
	うち調整果実数 ⑯																																																														
実 測 修正率	果 実 数 ⑰=⑮/⑯×100		%																																																												
	うち調整果実数 ⑱=⑮/⑯×100																																																														
検見調 査の調 査標本										平均果実重 ⑲=Σ⑮/n										粒																																											
うち平均調整果実数 ⑳=Σ⑯/n																																																															
調査標本平均果実数 ㉑=㉒×㉓										粒																																																					
調査標本平均調整果実数 ㉒=㉓×㉔										粒																																																					
調査標本平均見込収穫果実数 ㉓=㉑-㉒+㉔×調整係数()										粒																																																					
見込収穫量 ㉔=Σ ㉓×⑰×(㉑又は㉒)										kg																																																					

(A4判 縦)

(注意)

- 1 この野帳は、連合会抜取調査（様式例㉔第1号の2、同号の3、同号の4又は同号の5を使用して調査が行われる場合を除く。）を果実数調査の方法により樹体別に行う場合に使用すること。
- 2 評価者は、調査に先立って組合等の「損害評価野帳」（損害評価要綱様式例㉔第1号の1又は第5号の1）から必要事項を転記すること。
- 3 「着果樹体数」欄は、現地調査において確認した実際に着果している樹体の数を記入すること。
- 4 「現地調査の方式」欄は、例えば着果中枝調査又は着果群調査等と記入すること。
- 5 標本樹体のうち実測調査の対象となる調査標本については、「調査標本番号」欄の番号に○印を付すること。
なお、実測調査の結果は、該当欄に（ ）書で記入すること。
- 6 「果実重の調査」の「秤量調査の場合」欄は果実重の調査を秤量の方法により行つた場合の結果を、「尺度適用調査の場合」欄は果実重の調査を果実重推定尺度を適用して行つた場合の結果を記入すること。
- 7 「日数差に応じた果実重肥大推定指数」欄は、「日数差」欄の日数を別表6「果実重肥大推定指数による平均果実重の修正方法」により算定した指数に適用して得た指数を記入すること。
- 8 果実数、調整果実数、見込収穫果実数、果実重及び見込収穫量は、小数点以下第1位を四捨五入して整数位まで記入すること。修正率は、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで記入すること。

(様式例収第1号の2)

平成 年産 収穫共済 半相殺減収総合方式・樹園地減収総合方式(ぶどう) 連合会抜取調査野帳(果実数調査・区画別)

共済事故等による種別				方式				野帳枚数				枚のうち 枚							
評価		組合		階層		共済		組合員		現地調査	年 月 日	評価							
区域名		等名		区分名		番号		等氏名		年月日㉞		者印							
引 受 状 況							被 害 状 況							日数差 ①-㉞					
樹園地の 地名地番	類 区 分	細 区 分	品 種	樹 齢	引受 面積	引受 本数	災害の種類	災害発生 年月日	損害通知(定期)			組合等現地評価の結果							
					a	本		年月日	申 告 収穫量	被害 割合	収穫開始予 定年月日㉟	見 込 収穫量	分 割 減収量		分割事由				
	類	群		年		本		年月日	kg	%	年月日	kg	kg		日				
現地調査実 測着果面積 (区画)	棚区画で行う場 合		樹園地区画数① 区画		メートル法の樹園地区画数 (②÷4㎡)			調 査 階 層 別 区 画 数											
	メートル法の面 積で行う場合		面 積 ② ㎡		樹園地区画数 ① 区画			A 階 層 区画			B 階 層 区画			C 階 層 区画					
調査階層区分(A・B・Cの別)																			
階層区分別の調査標本数(n)																			
調 査 標 本 番 号																			
検見調査	果 房 数 ③	房																	
	うち調整果房数④	房																	
実測調査 (LMS 級別)	果房数(L級)⑤	房																	
	うち調整果房数⑥	房																	
	果房数(M級)⑦																		
	うち調整果房数⑧																		
	果房数(S級)⑨																		
	うち調整果房数⑩																		
	合 計 ⑪																		
	うち調整果房数⑫																		
					階層区分をしない場合			階 層 区 分 を し た 場 合											
					L	M	S	A階層			B階層			C階層					
果実重 の調査	調 査 果 房 数 ⑬	房			房	房	房												
	総 重 量 ⑭	g			g	g	g												
	平均果房重⑮=⑭/⑬	g			g	g	g												
	日数差に応じた果実重肥大推定指数⑯																		
	修正平均果房重⑰=⑮×⑯	g			g	g	g												
実測調 査の調 査標本	実 果 房 数 ⑱	房			房														
	うち調整果房数⑲	房			房														
検 見	果 房 数 ⑳	房			房														
	うち調整果房数㉑	房			房														
実測修 正率	果房数22=⑱/㉑×100				%														
	うち調整果房数23=⑲/21×100				%														
配分率	果房数㉒=Σ⑤、⑦又は⑨/⑬×100	%																	
	うち調整果房数・=Σ⑥、⑧又は⑩/⑬×100	%																	
調査標本平均果房数㉓=Σ③/n×22×㉒					房														
調査標本平均調整果房数㉔=Σ④/n×㉓×㉕					房														
調査標本平均見込収穫果房数 ㉖=㉓-㉔+㉕×調整係数()					房														
見込収穫量㉗=Σ(㉖×①×⑰)					分 割 減 収 量			分 割 事 由											
kg					kg														

(A4判 縦)

(注意)

- 1 この野帳は、ぶどうの連合会抜取調査を果実数調査の方法により区画別に行う場合に使用すること。
- 2 評価者は、調査に先立って組合等の「損害評価野帳」(損害評価要綱様式例[㊤]第1号の1又は第5号の1)から必要事項を転記すること。
- 3 「現地調査実測着果面積(区画)」欄は、現地調査において確認した面積(区画)を記入すること。
- 4 調査標本のうち実測調査の対象となる調査標本については、「調査標本番号」欄の番号に○印を付すること。
- 5 「果実重の調査」の欄は、果実重の調査を秤量の方法により行つた場合の結果を記入すること。
なお、果実重の調査を果実重推定尺度を適用して行う場合は、別用紙により行い、その結果を「平均果房重」欄に記入すること。
- 6 「日数差に応じた果実重肥大推定指数」欄は、「日数差」欄の日数を別表6「果実重肥大推定指数による平均果実重の修正方法」により算定した指数に適用して得た指数を記入すること。
- 7 果房数、調整果房数、見込収穫果房数、果房重及び見込収穫量は、小数点以下第1位を四捨五入して整数位まで記入すること。修正率及び配分率は、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで記入すること。

平成 年産 収穫共済 半相殺減収総合方式・樹園地減収総合方式（なし）連合会抜取調査野帳（果実数調査・樹体4分の1別）

共済事故等による種別						方式		野帳枚数							枚のうち		枚										
評価 区域名		組合 等名		階層 区分名		共済 番号		組合員 等氏名		現地調査 年月日⑦		年 月 日		評価 者印													
引 受 状 況									被 害 状 況								日数差 ①ー⑦										
樹園地の 地名地番		類 区 分	細 区 分	品 種	樹 齢	引受 面積	引受 本数	災害の種類		災害発生 年月日		損害通知（定期） 申告 收穫量		被害 割合		收穫開始予 定年月日④			見 込 收穫量		分 割 減収量		分割事由				
		類	群		年	a	本			年月日		kg		%		年月日			kg		kg						
植栽本数		本 着果樹体数 ①					現地調査の方式			検 見 実 測		調 査 樹体4分の1調査															
		階層区分をした場合																									
		A階層	B階層	C階層																							
		本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本				
調査階層区分（A・B・Cの別）																											
階層区分別の調査標本数（n）																											
調 査 標 本 番 号																											
検 見 調 査	主枝別の 着果 枝(群) 数		第 1 主 枝				本(箇)																				
			第 n 主 枝																								
			合 計 ②																								
	主枝別の 調査 標 本 （着果 枝・着 果 群 等）の 果实数 及び調 整果实 数		第1主枝		果 実 数		粒																				
			うち調整果实数		粒																						
			第n主枝		果 実 数																						
			うち調整果实数																								
			合 計		果 実 数																						
			うち調整果实数																								
			平 均		果 実 数 ③																						
		うち調整果实数④																									
		調査標本 の果实数		果实数⑤=②×③																							
		うち調整果实数⑥=②×④																									
実 測 調 査	調査標本4分の1		果 実 数 ⑦		粒																						
			うち調整果实数⑧		粒																						
	調査標本の果实数		果实数⑨=4×⑦×②		粒																						
		うち調整果实数⑩=4×⑧×②		粒																							
果 実 重 の 調 査	秤 量 調 査 の 場 合								尺 度 適 用 調 査 の 場 合																		
	調査果实数⑪		階層区分 をしない 場合		階層区分をした場合			横径		階段区分		A		B		C		n		計		平均 果实重		日数差 に応じ た果实 重肥大 推定指 数		修正平 均果实 重	
					A階層 B階層 C階層																						
	総重量⑫		g					縦径		階段区分		A		B		C		n		計		⑬＝ ⑭／⑮		⑯＝ ⑰×⑱			
	平均果实重⑬＝ ⑫／⑪		g																								
	日数差に応じた果实 重肥大推定指数 ⑭		g																								
	修正平均果实重 ⑮＝⑬×⑭		g					果实 重		階段区分		A		B		C		n		計		⑰ g		g		g	
実 測 調 査 の 調 査 標 本	果 実 数 ⑲		粒					検見調 査の調 査標本		平均果实重 ⑳＝Σ㉑／n		粒															

(A 4 判 縦)

(注意)

- 1 この野帳は、なしの連合会抜取調査の果実数調査に係る実測調査を調査標本4分の1調査により行う場合に使用すること。
- 2 評価者は、調査に先立って組合等の「損害評価野帳」(損害評価要綱様式例[㊤]第1号の1又は第5号の1)から必要事項を転記すること。
- 3 「着果樹体数」欄は、現地調査において確認した実際に着果している樹体の数を記入すること。
- 4 「現地調査の方式」の「検見」欄は、例えば着果中枝調査又は着果主枝調査等と記入すること。
- 5 調査標本のうち実測調査の対象となる調査標本については、「調査標本番号」欄の番号に○印を付すること。
- 6 「果実重の調査」の「秤量調査の場合」欄は果実重の調査を秤量の方法により行つた場合の結果を、「尺度適用調査の場合」欄は果実重の調査を果実重推定尺度を適用して行つた場合の結果を記入すること。
- 7 「日数差に応じた果実重肥大推定指数」欄は、「日数差」欄の日数を別表6「果実重肥大推定指数による平均果実重の修正方法」により算定した指数に適用して得た指数を記入すること。
- 8 果実数、調整果実数、見込収穫果実数、果実重及び見込収穫量は、小数点以下第1位を四捨五入して整数位まで記入すること。修正率は、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで記入すること。

(様式例(収)第1号の4)

平成 年産 収穫共済 半相殺減収総合方式・樹園地減収総合方式(くり)連合会抜取調査野帳(樹体別)

共済事故等による種別				方式				野帳枚数				枚のうち 枚																	
評価	区域名	組合等名	階層区分名	共済番号	組合員等氏名	現地調査年月日⑦	年 月 日	評価者印																					
引 受 状 況						被 害 状 況						日数差 ①-⑦																	
樹園地の地名地番	類 区 分	細 区 分	品 種	樹 齢	引受面積	引受本数	災害の種類	災害発生年月日	損害通知(定期)				組合等現地評価の結果																
	類	群		年	a	本		年月日	申告 収穫量	被害 割合	収穫開始予定年月日④		見 込 収穫量	分 割 減収量	分割事由														
								年月日	kg	%	年月日	kg	kg		日														
植栽本数	本 着きゆう樹体数		①		階層区分をした場合			現地調査の方式	検 見		調 査																		
			A階層 B階層 C階層			実 測			調 査																				
	本		本 本 本 本																										
調査階層区分(A・B・Cの別)																													
階層区分別の調査標本数(n)																													
調 査 標 本 番 号																													
主枝別の着きゆう枝(群)数	第 1 主 枝					本(群)																							
	第 n 主 枝																												
	合 計 ②																												
主枝別の調査標本(着きゆう枝・着きゆう群)の着きゆう数	第1主枝		着きゆう数			きゆう																							
			うち調整きゆう数			きゆう																							
	第n主枝		着きゆう数																										
			うち調整きゆう数																										
	合 計		着きゆう数																										
			うち調整きゆう数																										
平均			着きゆう数③																										
			うち調整きゆう数④																										
調査標本の着きゆう数			着きゆう数⑤=②×③			きゆう																							
			うち調整きゆう数⑥=②×④			きゆう																							
調査標本の落きゆう数			落きゆう数⑦			きゆう																							
			うち調整きゆう数⑧			きゆう																							
調査標本合計			着きゆう数⑨=⑤+⑦			きゆう																							
			うち調整きゆう数⑩=⑥+⑧			きゆう																							
秤 量 調 査 の 場 合						尺 度 適 用 調 査 の 場 合																							
果 実 重 の 調 査			階層区分をしない場合		階層区分をした場合			標本きゆう番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9		n	計	平均果実重	日数差に応じた果実重肥大推定指数	修正平均果実重						
			A階層 B階層 C階層		A階層 B階層 C階層																								
	調査きゆう数⑪		きゆう					きゆう重(いがを含む。)																⑬=⑪/⑫		⑭		⑮=⑬×⑭	
	総きゆう重⑫(いがを除く。)		g					階層区分																					
	平均果実重⑬=⑫/⑪		g					A B C																⑬ g		g		g	
	日数差に応じた果実重肥大推定指数 ⑭							果実重																					
修正平均果実重 ⑮=⑬×⑭		g					階層区分																						
階層区分をしない場合						階層区分をした場合			階層区分をしない場合														階層区分をした場合						
実 測 調 査 の 調 査 標 本	実 測	着きゆう数 ⑲		きゆう					検見調査の調査標本	平均着きゆう ⑳=Σ⑲/n		きゆう					A階層 B階層 C階層												
		うち調整きゆう数 ㉑		きゆう						うち平均調整きゆう数㉒=Σ㉑/n		きゆう																	
	検 見	着きゆう数 ㉓		きゆう					調査標本平均着きゆう数㉔=㉒×㉑		きゆう																		
		うち調整きゆう数 ㉕		きゆう					調査標本平均調整きゆう数㉖=㉓×㉕		きゆう																		
実 測 修正率	着きゆう数 ㉗=㉓/㉕×100		%					調査標本平均見込収穫きゆう数 ㉘=㉓-㉖+㉖×調整係数()		きゆう																			
	うち調整きゆう数 ㉙=㉕/㉕×100		%					見込収穫量㉚=Σ(㉑×㉑×(㉙又は㉘))		kg																			
						分割減収量		kg		分割事由																			

(A4判 縦)

(注意)

- 1 この野帳は、くりの連合会抜取調査を行う場合に使用すること。
- 2 評価者は、調査に先立って組合等の「損害評価野帳」(損害評価要綱様式例⑩第1号の1又は第5号の1)から必要事項を転記すること。
- 3 「着きゆう樹体数」欄は、現地調査において確認した実際に着果している樹体の数を記入すること。
- 4 「現地調査の方式」欄は、例えば着果中枝調査又は着果群調査等と記入すること。
- 5 調査標本のうち実測調査の対象となる調査標本については、「調査標本番号」欄の番号に○印を付すること。
なお、実測調査の結果は、該当欄に()書で記入すること。
- 6 「果実重の調査」の「秤量調査の場合」欄は果実重の調査を秤量の方法により行つた場合の結果を、「尺度適用調査の場合」欄は果実重の調査を果実重推定尺度を適用して行つた場合の結果を記入すること。
- 7 「日数差に応じた果実重肥大推定指数」欄は、「日数差」欄の日数を別表6「果実重肥大推定指数による平均果実重の修正方法」により算定した指数に適用して得た指数を記入すること。
- 8 着きゆう数、調整きゆう数、きゆう数、見込収穫きゆう数、きゆう重及び見込収穫量は、小数点以下第1位を四捨五入して整数位まで記入すること。修正率は、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで記入すること。

(様式例^①第1号の5)

平成 年産 収穫共済 半相殺減収総合方式・樹園地減収総合方式(キウイフルーツ) 連合会抜取調査野帳(果実数調査・区画別)

共済事故等による種別				方式				野帳枚数				枚のうち 枚										
評価		組合		階層		共済		組合員		現地調査	年 月 日	評価										
区域名		等名		区分名		番号		等氏名		年月日 ^⑦		者印										
引 受 状 況								被 害 状 況								日数差 ①ー⑦ 日						
樹園地の 地名地番	類 区 分	細 区 分	品 種	樹 齢	引受 面積	引受 本数	災害の種類	災害発生 年月日	損害通知(定期)			組合等現地評価の結果										
					a	本		年月日	申 告 収穫量	被 害 割合	収穫開始予 定年月日 ^④	見 込 収穫量	分 割 減収量	分割事由								
	類	群		年		本		年月日	kg	%	年月日	kg	kg									
現地調査実 測着果面積 (区画)	棚区画で行う場 合		樹園地区画数 ^① 区画		メートル法の樹園地区画数 (②÷4㎡)		調 査 階 層 別 区 画 数															
	メートル法の面 積で行う場合		面 積 ② ㎡		樹園地区画数 区画		A 階 層			B 階 層			C 階 層									
調査階層区分(A・B・Cの別)																						
階層区分別の調査標本数(n)																						
調 査 標 本 番 号																						
検見調査	果 実 数 ③		粒																			
	うち調整果実数 ^④		粒																			
実測調査	果 実 数 ⑤		粒																			
	うち調整果実数 ^⑥		粒																			
果 実 重 の 調 査	秤 量 調 査 の 場 合				尺 度 適 用 調 査 の 場 合																	
			階層区分 をしない 場合	階層区分をした場合			標本果実番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9		n	計	平 均	日数差	修正平
			A階層	B階層	C階層	横径	階層 区分	A											⑫粒	果実重	に 応 じ た 果 実 重 肥 大 推 定 指 数	均 果 実 重
	調査果実数 ^⑦		粒				縦径	階層 区分	A										⑭ = ⑬ / ⑫	⑮	⑯ = ⑭ × ⑮	
	総 重 量 ⑧		g				果実 重	階層 区分	A										⑬ g	g	g	
	平均果実重 ^⑨ = ⑧ / ⑦		g																			
	日数差に応じた果実 重肥大推定指数 ⑩																					
修正平均果実重 ⑪ = ⑨ × ⑩		g																				
実 測 調 査 の 調 査 標 本	実 測	果 実 数 ⑰		粒				検見調 査の調 査標本	平均果実重 ⑲ = Σ③ / n	粒												
		うち調整果実数 ⑱		粒					うち平均調整果実数 ⑳ = Σ④ / n													
	検 見	果 実 数 ⑲							調査標本平均果実数 ㉑ = ㉓ × ㉒	粒												
		うち調整果実数 ㉒							調査標本平均調整果実数 ㉔ = ㉕ × ㉒	粒												
	実 測 修正率	果 実 数 ㉑ = ⑰ / ⑲ × 100		%					調査標本平均見込収穫果実数 ㉖ = ㉑ - ㉓ - ㉒ × ㉔ × 調整係数 ()	粒												
		うち調整果実数 ㉒ = ⑱ / ㉒ × 100							見込収穫量 ㉓ = Σ ㉑ × ① × (⑪又は⑯)	kg												

(A4判 縦)

(注意)

- 1 この野帳は、キウイフルーツの連合会抜取調査を果実数調査の方法により区画別に行う場合に使用すること。
- 2 評価者は、調査に先立って組合等の「損害評価野帳」（損害評価要綱様式例[㊤]第1号の1又は第5号の1）から必要事項を転記すること。
- 3 「現地調査実測着果面積（区画）」欄は、現地調査において確認した面積（区画）を記入すること。
- 4 調査標本のうち実測調査の対象となる調査標本については、「調査標本番号」欄の番号に○印を付すること。
- 5 「果実重の調査」の「秤量調査の場合」欄は果実重の調査を秤量の方法により行つた場合の結果を、「尺度適用調査の場合」欄は果実重の調査を果実重推定尺度を適用して行つた場合の結果を記入すること。
- 6 「日数差に応じた果実重肥大推定指数」欄は、「日数差」欄の日数を別表6「果実重肥大推定指数による平均果実重の修正方法」により算定した指数に適用して得た指数を記入すること。
- 7 果実数、調整果実数、見込収穫果実数、果実重及び見込収穫量は、小数点以下第1位を四捨五入して整数位まで記入すること。修正率は、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで記入すること。